野尋禾のついのべ その十一

(2010/08)

タイトル

野尋禾の
ついのべ

その十二
（２０１０・０８）

まえがき

”野尋禾のついのべ　その十二　（2010/0８）”です。
2010年８月に発表したついのべをまとめました。

俗にニッパチなどと申しますが、この月は作品が少なくなっています。
理由はいろいろありますが、いろいろ想像してみるのもまた一興。

今回の収録作品のアイディアは、ニュースねたが多いような気がします。
非実在老人問題しかり、鉱山の落盤事故しかり……
つくづく、現実は想像力を凌駕してますね。
こっちがネタにすることはあっても、こっちがネタになることはない。
これからもネタにしていきたいと思います。

表紙写真は、八月のある日の夕暮れです。
核爆発ではありません。
撮影地は東京都調布市です。
参考まで。

あなたの暇を潰す柔らかいハンマー、または曲がるペンチ、それとも……

本コンテンツに収録された作品はフィクションです。
実在する人物、団体名などは便宜上、用いたものです。
実在する人物、団体になんら影響の及ぶものではありません。
ご了承ください。

収録作品はすべて、twitter で発表されたものですが、修正を加えたものもあります。

本ファイルに収録された作品の著作権は、野尋禾／nohironogi／佐々木秀博に帰属します。

2010/0 9/0 5

HP　　：http://www.geocities.jp/nohiro nogi/
mail　　：nohironogi@gmail.com
Twitter ：@nohironogi

Part 01 熱闘篇 (2010/08/01 - 10)

#twnovel

幸せになるために、僕らは生まれれてきた。
こんなでたらめな、どん底のこの街に。
翼もなく、脚力もないし、クルマもないから、逃げ出せない。
腕力もなく、銃も、刀もないから、闘うこともできない。
君を守りたい、君と生きていきたい――その気持ちだけで生きている。
あとは、酒……

2010年08月08日(日)20:26:50

#twnovel

旧家の土蔵から発見されたのは、予言書――
”今より、およそ五百年ののち、甲をつけた子らの園、高き木を交わし、里に予め王を求める場にて、いくさは繰り返される”
……一緒に出てきた古地図を頼りに、予言された戦場を探した我々は、今、銀傘の下で、かちわりをかじっている。

2010年08月09日(月)18:36:57

#twnovel

宗教上の理由で、文字数が制限された集団。
そのなかで、さらに枷をはめ、文字数を削る一団。
ときにはテーマを与えられ、それに従う。
異教徒の目には、無謀な試み、残酷な苦行にしか見えない。
だが、信徒たちは、愉悦のうちに書き続ける。
そして、驚くべきことに、それは可能なのだ。

2010年08月09日(月)22:15:16

#twnovel

二十世紀は、戦争の世紀。
戦争は有史以来絶えたことがないが、全人類を巻き込む悲惨な世界大戦は、それまでなかった。
一般市民が殺しあい、非戦闘員が虐殺された。
そして、二十一世紀――戦局は再び職業軍人の手に委ねられた。
ただし、戦場に立つのは人間ではなく、美少女ロボット。

2010年08月10日(火)18:25:22

#twnovel

誰もいない森の奥で、音をたてずに樹が倒れた。
誰もいない森の奥で、音もなく老人が倒れた。

誰もいない森の奥で、音もなく老人が立ち上がった。
誰もいない森の奥で、音もなく老人たちが集まってきた。
誰もいない森の奥で、音もなく老人たちの茶会が始まった。
いつ果てることなく……

2010年08月10日(火)23:35:25

Part 02 流星人間地帯 (2010/08/11 - 20)

#twnovel

対策は十分ではなかった。
いや、死亡ユーザーへの対応策は悪くなかった。
だが――今、全世界のツイッター・ユーザーが途方に暮れている。
呆然とするユーザーたちのおかげで、社会活動も停滞している。
ツイッター社倒産によるサービス停止後の対応マニュアルは策定されていなかった。

2010年08月11日(水)23:13:47

#twnovel

私たちは、奇跡でできている。
奇跡的に生命の溢れる惑星で生まれ、奇跡的に事故や災厄をのがれ、奇跡的に、今日、こうして出会った。
星の数ほどの人類のなかで、たまたま、ツイッターのユーザーどうしとして。あなたは誰？
私の作品をコピペしたかのようなついのべの作者のかた……

2010年08月11日(水)23:42:46

#twnovel

降るような星空。
そこから落ちてくるみたいな流星――勿論、ほとんどは彗星の残した塵にすぎない。
だが、すべてではない。
流星群に紛れて、地球に落ちてくるものがある。
宇宙葬を――流星になることを望んだ人々。
彼らの棺が投入されるコースはこう呼ばれている――流星人間ゾーン。

2010年08月13日(金)01:37:15

#twnovel

願いごとをなさい――時のかなたから聞こえてくる声。
無邪気に願いごとを唱えた幼い日々。
あの頃の流星はよかった。
たいていは燃え尽きたし、落ちてきても、ただの石塊。
今は違う。落下予測地点に先行。
減速して着地した流星が吐き出す降下兵、一個小隊――地上人類の敵、流星軍だ。

2010年08月13日(金)02:57:42

＊毎月14日はついのべの日。

ついのべの日参加作品。
テーマは”祭り”
#twnvday #twnovel

今年は祭りが少ない。
例年に比べると、発生時期も遅く、規模も小さい。
しかし、小さいとはいえ、祭りは祭り。
上陸しなくても、社会生活は滞るし、上陸すれば、老若男女ことごとく巻き込まれ、ふりまわされて、右往左往。
そして、気がつけば、祭り一過の青空の下。

2010年08月14日(土)10:10:11

＊毎月14日はついのべの日。
ついのべの日参加作品
テーマは”祭り”
#twnvday #twnovel

私たちは、人間に見つかってはいけない。
人間のものをちょっとだけ借りて暮らしている。
人間の衣服、人間の食べ物、人間の家……
「神主さん、今年も？」
「律義な泥棒じゃよ」
「毎年、神輿のてっぺんの飾りだけ、借りて返すんですよね？」
「どこぞで祭りでも……」

2010年08月14日(土)10:29:52

#twnovel

満員電車。
すぐ隣に立つ男が、ヘッドフォンの位置を直した。
一瞬、彼の聞いている音が漏れてきた。
それは、おびただしいアブラゼミの鳴き声……生理的嫌悪感を覚えた。
私は、落ち着くために、自分のヘッドフォンを装着した。
ヒグラシの合唱が、ささくれだった心にしみこんできた。

2010年08月15日(日)12:07:50

#twnovel

老人が呼吸を止めた。
巨大な鳥居の濃い影のなかで。
収容先の病院に家族が呼ばれた。
太平洋戦争終結ーー生涯をその時期の研究に費やした。
御前会議、終戦詔勅、講和条約締結……厳密な終戦はいつなのか。
まだ終わっていない、とよく呟いていた。
孫が言う。
「やっと、終わったんだね」

2010年08月15日(日)23:07:48

#twnovel

どんなに強いチームも、負けるのは一度だけ。
俺たちの夏は終わった。
燃え尽きた……
「何をたそがれてるんだッ！」
「何をって……」
「俺たちの夏は終わってないゼッ！」
「はあ？」
「さあ、また燃え上がるゼッ！」
「暑い……」
「おいッ！　どうしたッ？　息を、息をしろおおおおッ！」

2010年08月16日(月)18:13:58

#twnovel

マルノウチ、オアゾ、ハヤブサ……
ひとめでいいーー奇跡の帰還を果たした宇宙機に会いたい。
都会の片隅に生まれ、長い時を待ち続けた私。
陽のあたる場所に出られたけど、もう、命の灯は……せめて、もう少し。
ここか。
このビルに、はやぶさが待っているーー
「うわ、なんだこの蝉！」

2010年08月16日(月)20:57:02

#twnovel

あの空を忘れない、と祖母は語った。
その年の八月十五日、聞きづらい放送のあと、大人たちから離れて、外に出た。
晴れあがった空を埋め尽くすものがあった。
それが、地上に降り注ぎ、消えた。
直後、祖母は祖父に出会い、翌年、父が生まれた。
列島に恋が降ったのよ、と祖母は微笑む。

2010年08月16日(月)21:54:08

#twnovel

五十年前、結婚直後に亡命した。
国家機密を持ち出した裏切り者を、故国は許さなかった。
次々に刺客が現れた。
この国の優秀な護衛が、その魔手を阻んだ。
やがて、故国は崩壊した。
刺客も絶えた……いや、一人だけ残っている。
彼女は今、私の隣で寝息をたてている。

明日は、金婚式だ。

2010年08月18日(水)01:15:43

#twnovel

「あいつ、自殺したんだって」
「誰？」
「小四のとき同じクラスで、目立たないけど、いい奴で」
「どんなふうに？」
「同じ傘に入れてくれたり、運動会で一緒に走ってくれたり」
「ふうん」
「もっと会って話したかったなあ、とか思って……」
「違うよ」
「え、何が？」
「傘も運動会も俺」

2010年08月18日(水)15:16:24

#twnovel

都市は様々な顔を持つ。
見るものの数だけ、その顔がある。
深く踏みこむと、また別な顔が現れる。
俺は探偵。
報酬しだいでなんでもするし、どこへでも行く――都市の最深部へも。
また別な顔だ。
まるで入れ子細工だ。
しだいに風景は曖昧になり、物質は振る舞いを変える――魔都量子化。

2010年08月19日(木)23:41:19

#twnovel

ツイッターはゆるいつながり。
そのゆるさが寂しくなるときもある。
友達がほしい――素直にそうツイートした。
思いがけない反響があった。
”僕がいるよ！” とか、”あなたは心の恋人です！”などなど……
みんな、僕が宝くじをあてたことを知っているらしい。
それは呟いてないのに……

2010年08月20日(金)23:12:35

Part 03 プリン革命 (2010/08/21 - 31)

#twnovel

市長は、議場の絨毯に額をこすりつけた。
わがまま市政に対するリコール請求は、さすがに応えたようだ。
しゃくりあげながら、謝罪の言葉らしきものを喚いている。
議長は退場を促したが、動こうとしない。
とうとう、お母さんが呼ばれた。
「泣かないの。プリン食べていいから」
「うん」

2010年08月21日(土)01:35:54

#twnovel

「ちこくーっ！」
あたし、大赤まだら。
元気で可愛い女子高生。
変な夢を見て寝坊しちゃった。
そんなわけで、トーストくわえて全力疾走なう。
ほんと、変な夢だったな。
木星から大赤斑が……
「きゃっ！」
角をまがったとたん、何かに衝突アンド尻もち。
いたた……え、目の前に、大赤斑？

2010年08月21日(土)17:12:01

#twnovel

「今日もプリンだったそうです」
「いい気なものだ」
「……」
「落ち着け！」
「我々がカリントウに甘んじているというのに……市民のおやつにはプリンが必要だ！」
「市長の独占を許すな！」
「われらにプリンを！」
「リコール請求だ」
「署名を集めろ！」
「革命だ！」
「プリン革命だ！」

2010年08月21日(土)17:31:04

#twnovel

我が人生に悔いなし。
歴史に刻まれるべき功績を遺した。
が、ここはなんなのだ？
大往生して昇天した先が、こんな場所とは……
「誰かある。ここはなんなのだ？」
天使のようなものが舞い降りてきた。
「ここは、あなたの人生のすべて。あなたが変えた世界」
「この排泄物の山脈が……」

2010年08月22日(日)18:22:30

#twnovel

夏休みシーズン。
昼間から、傍若無人な若者たちが電車に乗ってくる。
うるさい年寄りと思われても、これだけは忠告しなくてはーー
「君たち、鞄は前にかけないと、他の方に迷惑だよ」
「はーい」
ーー素直な返事は、しかし、デイパックの中から聞こえ、向きを変えたのは若者たちだった。

2010年08月22日(日)18:59:13

#twnovel

彼女は言った。
「離れてても大丈夫だよね」
彼は答えた。
「俺の気持ちは絶対かわらねえ」
ーー若い二人を翻弄する運命。
N.Y、9.11テロ、カナダ……
事件と国境と距離と時間。試練は雨のように襲い、やがて、春ーー桜の季節。
二人の絆の行方は……絶賛公開中、映画”花見好き”。

2010年08月22日(日)20:28:52

#twnovelを書かなくては。
今日が終わる前に。
#twnovelは、まいにち書かなくてはいけない。
書かないと、死んでしまう。
恐ろしいことだ。
早く書かないとーーあ、十二時すぎた。
まだ、生きてる……そうか、すぐ死ぬわけじゃないんだな。
なんて恐ろしい。
いつ死ぬかわからないなんて……

2010年08月23日(月)23:57:13

#twnovel

蝉の死骸を眺めている。
蝉は七年ほど土の中にいるのだとか。
七年前ーー親父の会社を継いだ。
彼女と出会った。
楽しかったなーーしばらくは。
それから、ある同業他社の業績が急上昇し、彼女がそこの役員に抜擢された。
僕は会社を追われ、路上で蝉を眺めている。
鳴くこともできずに……

2010年08月24日(火)20:25:56

#twnovel

「静かにしなさい！　遊んでばかりいるとどうなるか、というお話をします」
「”アリとキリギリス”なら知ってるよ」
「そう言うと思って、今日はイソップの原典に近いセミのほうでいきます」
「本当はセミなのー！」
「すげー！」
「どっちも遊び人なんだ！」
「”セミとキリギリス”！」

2010年08月24日(火)20:45:18

#twnovel

「監督、こんなのどうすか？」
「なんだね、助監督？」
「セミが、子供たちに話しかけるんです」
「なんて？」
「わしは、何十億年も眠っていた大昔のセミじゃ。変わり果てた地球を見て悲しい。一緒に新しい世界を作ろう。しかし……」
「しかし？」
「実は宇宙忍者なんです！」
「却下！」

2010年08月24日(火)21:03:37

#twnovel

ここは地の底ーー落盤事故にまきこまれた。
死者も重傷者も出ていないが、地上への道は閉ざされた。
細いパイプで地上との連絡は保っているが、復旧のめどは教えてもらえない。
しかし、そんなことは小さな問題だ。
今、我々の前には、地底帝国の使者ーー半裸の美女たちが微笑んでいる。

2010年08月25日(水)22:20:30

#twnovel

　豪雨で交通が遮断された桃原峡温泉に取り残された宿泊客と職員が、今日、三日ぶりに、ヘリコプターで救出されました。
　全員、健康状態も良好で無事である、とのことです。
　救出された宿泊客です。
「帰してよ！　なんで、あんないいところから帰らなきゃいけないの！　お金は払っ……」

2010年08月25日(水)22:51:54

#twnovel

「さて、君はどう思うかね？」
「魔事嚇刑ス！」
「ふむ、ではこうしたら？」
「覇亞……」
「忌憚ない意見を聞かせてほしい」
「亞脳、餓痴スカ？」
「うむ。是非」
「蛇、言っ茶胃升毛度、前の砲が淫邪寝？」
「なんと！」
「亞、寸魔旋！　翻屠、御免那祭！」
「いやいや、淫邪寝、淫邪寝」

2010年08月26日(木)21:35:57

#twnovel

旧友と会うことになった。
二十年ぶりだ。
待ち合わせ場所では落ち着かなかった。
こっちの変わりようをどう思うだろうか。
マンガもギターも諦めた。
髪は薄くなったし、腹も出た……ぽん、と肩を叩かれた。
「すぐにわかったよ。かわってないなあ。いや懐かしい。ところで、この壺ーー」

2010年08月27日(金)20:58:46

#twnovel

旧友と二十年ぶりに再会。
居酒屋で旧交を温めた。
お互いもういいオヤジだが、同じ夢を追った仲間だ。
だんだん、昔のノリが甦ってきた。
妙な壺を売りつけられそうになったことも許そう。
気持ちよく酔って、駅へ。
友情を確かめた今ならーー
私はコインロッカーから、幸福を呼ぶ塔を……

2010年08月27日(金)21:53:58

#twnovel

誰もフォロワーを選べない。
TLがつまらなくても、何も変えられない。
親を選べないのと同じ。
生まれる国を選べないのと同じ。
色彩のない毎日の一部。
首領さまがくださったフォロワーは、この素晴らしき世界の一部……
外の世界のことなんて、知りたくなかった。
僕は、もう呟けない。

2010年08月28日(土)19:41:48

#twnovel

細いパイプから出てきたのは、超小型PCだった。
落盤事故で閉じ込められた俺たち。
救助用竪抗が掘りあがるのは半年さき。
暇つぶしに飢えていた。
起動すると、どこかの大学教授の講義が再生された。
暇だから熱中した。
救助される頃には、親会社にTOBをしかけるまでになっていた。

2010年08月30日(月)20:10:46

#twnovel

しだいに俺たちは無口になった。
体力温存、酸素節約ーーそんなことじゃない。
地上で練られた救助計画を知らされてから、どっと虚脱していた。
そんなとき、もとから無口なパコの奴が言い出した。
「バンドやろうぜ」
ーーそれが始まりだった。
地底からヒットチャートを駆け上る伝説の。

2010年08月31日(火)21:23:26

#twnovel

盃は盃。
だがーー
「わかっとんのか。ただの盃やないんやで」
神妙にオジキが念を押す。
俺は黙って、注がれた酒を干した。
滴を切り、懐へ収める。
無意識に所作をこなしながら、流れ込む記憶の奔流ーー仁義なき戦い。
歴代の組長の記憶が、俺を破壊する。

思ったより強烈だーー継承盃は。

2010年08月31日(火)22:44:38

#twnovel

「む、いかん！」
「オヤジ、何事で？」
「任侠鏡が割れた。西のシマで異変が……」
「ってえと、継承の儀式が？　どうなるんで？」
「もはや、西のシマは地獄よ」
「あの、西のよきオヤジと呼ばれた名組長のシマが……」
「ヤス、ここは、立たねばならんのう……」
「任侠の名にかけて！」

2010年08月31日(火)23:49:21